

学 年	中3年	群市名	豊 田
提 案 者	豊田市立前林中学校		大田 健斗

仲間とかかわりあいながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業  
 —中3「国民からの6つの要望を実現しよう」の実践を通して—

## 1 はじめに

令和初の国政選挙となった第25回参議院議員選挙が行われた。総務省が発表している投票率を確認すると、10代の投票率は32.28%、そして20代の投票率は30.96%と若者の政治離れは極めて深刻な状況にある。この原因としては、政治に対する期待感が薄れており、どの政党が政権を握っても自分たちの生活に大きな変化がないと多くの若者が感じていることや自分の生活にしか興味をもたない若者が増加していることが、若者の政治離れを加速させていることが考えられる。

中学3年生はあと3年もすれば選挙権をもち、政治に参加していくこととなる。本学級で毎日ニュースを見て社会の情勢を確認している生徒の数を調べたところ、学級の約3割ほどであった。社会の情勢に興味がありません、そこで起きている問題も自分とは関係ないところで起きていると考えている生徒が多いように感じた。一方で、第25回参議院議員選挙後の生徒の日記にも消費税のことについて書かれているものがあつた。この選挙の争点は消費税を10%に引き上げるかどうかであり、連日テレビで大きく取り上げられたことが関係していると推測できる。このことから、「税金」は生徒にとって身近で関心のある教材だと考えた。そこで本実践では、年々増加する公債と少子高齢社会に関わる社会保障制度の問題など、日本の課題について自分事としてとらえ、仲間とかかわりあいながら、望ましい解決方法を考える活動に取り組んでいくことにした。

## 2 研究の基本的な考え方

### (1) 学級の様子

社会科の授業では、既習の知識を問うような問題では、積極的に挙手・発言することができる生徒が多い。また、表やグラフなどの資料から読み取った事実については発表できるが、複数の資料を関連付け、多面的・多角的に自分の考えを求められると発言できない生徒が多い。加えて、自らの考えに自信をもてないまま、他者の考えを聞いて、それを発問の答えにしようとする生徒もいる。意見交換の場でも、自分事ではなく、どこか他人事のような発言が見られる。

## (2) 目指す生徒像

このような生徒の実態を踏まえ、本単元では、以下のような生徒の姿を目指し、研究に取り組んでいくことにした。

- ①社会的事象を自分事として捉え、問題意識をもちながら意欲的に追究できる生徒
- ②資料から読み取れることを根拠とし、話し合いを通して、複数の資料を関連付け、多面的・多角的に考えられる生徒

この実践での多面的とは、税金を多様な側面から見るができることを指す。また、多角的とは、税を様々な視点（立場）から考えることができることを指す。

## (3) 研究の仮説と手立て

### 手立て1 生徒が関心のある教材の活用

消費税が10%に上がったことなどにより、生徒は「税」について関心をもっている。その「税を集める方法」を追究の中心として単元を構成することで、課題を自分事として捉えやすくなり、生徒の学習意欲が高まるはずである。そして、社会的事象と自分の生活

#### 【仮説1】

生徒の関心の高い社会的事象を追究の中心として単元を構成することで、社会的事象と自分の生活との関わりに気づき、問題意識をもちながら意欲的に追究できるであろう。

との関わりに気づき、問題意識をもちながら意欲的に追究できるであろう。

### 手立て2 教材に対して学習意欲を高めるためのシミュレーション

シミュレーションを取り入れることで、生徒たちに強い問題意識や関心意欲をもたせることができるはずである。そして、そこから出された「なぜ?」、「どうして?」という生徒たちの疑問を追究課題とすることで、生徒たちの学習意欲が高まるだろう。

### 手立て3 税のプロフェッショナルである税理士を招き、話を聴く

税理士をゲストティーチャーとしてお招きし、租税の意義や役割について説明していただくことで、生徒の関心を高めながら、生徒たちの税について理解を深めることができるであろう。また、単元の最後には「足りない税収を補うためにはどうしたらよいのだろうか?」という学習課題に対する生徒たちの打開策を聞いていただき、評価していただく。そういう活動を設定して追究することで、生徒たちの課題に対する追究意欲を維持することができるだろう。

#### 【仮説2】

資料から読みとれることを根拠として、自分の考えをまとめ、仲間との話し合う場を設定すれば、多面的・多角的に考えることができるだろう。

### 手立て4 根拠をもつための調べ学習

自分の思いや考えを述べる際には、その根拠が必要である。「なぜそのように考えたのか」という理由付けをしっかりとさせるためにも調べ学習の時間を確保する。そうすることで、生徒たちは、調べたことを根拠に自分の考えに自信をもてるようになるだろう。

### 手だて5 資料の読み取り方を学ぶ場面の設定

生徒が資料を読みとれない原因には、読みとり方が分からないことが考えられる。そこ

で、資料を読み取れるように、以下の具体的な読み取り方の順序を提示することで、生徒が理解しやすくなるだろう。

- ①資料から読み取れる事実をまとめる。
- ②読み取った事実を踏まえて自分の考えを書く。
- ③自分の意見を発表する。

#### 手だて6 意見の相違点を意識した話し合い活動

意見交流の場面を設定する。意見交流をする中で、自分の考えた意見や理由と仲間が考えた意見や理由の相違点に着目して話し合い活動を行う。そして、自分の考えを見直す時間の中で、賛成できる意見や納得できない意見は何か、なぜそう思うのかを考え、表現させる。

#### (4) 抽出生徒

本実践を進めるにあたり、抽出生徒 A を設定した。

生徒 A	
〈実態〉	<p>社会の授業では、資料から読み取ることができる。一方で、複数の資料を関連付けて考えることが苦手であり、自分の考えに自信をもてないことが多く、人前で自分の意見を発表することに対しては消極的である。</p>
〈願い〉	<p>仲間たちとのかかわりあいを通して、自分の考えに自信をもって伝えられるようになってほしい。複数の資料を関連付けたり、級友たちの意見を聞いたりしながら自分の考えをまとめることができるようになってほしい。</p>

#### (5) 単元の目標

- ・租税に対し関心をもち、税制上の諸課題を意欲的に追究できる。(関心・意欲・態度)
- ・租税についてお互いに意見交換し、社会保障に関して学習を深めることで、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割を考えることができる。(思考・判断・表現)
- ・グラフや統計資料から日本の財政の現状と課題を読み取ることができる。(資料活用の技能)
- ・国民生活と福祉の向上を図るため、国や地方公共団体が果たしている役割について理解できる。(知識・理解)

#### (6) 単元構想 (10 時間完了)

段階	学習活動	指導上の留意点, 手立て
であう	<p>日本にはどのような税金があるのだろうか? ①②</p> <p>○サラリーマンの1日の過ごし方と税金の関わりについてシミュレーションを行う。</p> <p>・そんなところにも税金がかかっているんだなあ。</p>	<p>手立て①</p>
	<p>○どのような税金があるのかインターネットで調べる。</p> <p>・消費税以外にも税金がたくさんある。</p> <p>・温泉に入るだけでも税金がかかるなんて知らなかった。</p> <p>・車は税金がたくさんかかっているんだなあ。</p>	<p>手立て④</p>
深める	<p>税金の使い道は何か? ③④⑤</p> <p>○学習課題に対して予想を立てる。</p> <p>・国の政治に使っているのかな。</p>	<p>・KJ 法を用いて、グループ活動を行い、意見交</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公務員の給料のため。</li> <li>・道路や橋を造るために使っているのかもしれない。</li> </ul> <p>○税理士をゲストティーチャーとしてお招きし、租税の意義や役割について説明を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障に多額の税金が使われている。</li> <li>・税金を払わないと国が回らない。</li> </ul> <p>○社会保障の4つの柱（社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生）について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障にも種類があるんだね。</li> <li>・これらの制度が整っているから安心して暮らせるんだ。</li> </ul>	<p>換させる。</p> <p>手立て③</p>
<p>い か す</p>	<p><b>国民からの要望を実現するために、あなたならいくら税金を払うか？⑥</b></p> <p>○国民からの6つの要望を実現するために、与えられた年収（180万円、250万円、350万円、420万円、500万円、650万円、800万円、1000万円）から税金の支払い額を決めるシミュレーションを行う。</p> <p>○なぜその支払額にしたのかを班で話し合い、自分の考えを再考する。</p> <p><b>足りない税収を補うためにはどうしたらよいのだろうか？⑦</b></p> <p>○資料から日本の問題点を読み取り、日本の財政が抱える課題を知る。</p> <p>○打開策を個人で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい税金をつくってみよう。</li> <li>・消費税を高くしよう。</li> <li>・国債を発行して乗り切ろう。</li> <li>・政策の一部をあきらめてはどうか。</li> </ul> <p><b>打開策を班でまとめよう！⑧⑨</b></p> <p>○打開策を班でまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費税、所得税増税してみよう。</li> <li>・国会議員の給料を半分にする。</li> <li>・レジ袋税、名所税を新設する、車で走った分だけ税をとる。</li> </ul> <p>○打開策が本当に実現可能かどうかを精査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費税を増税するとかなりの税収がありそう。</li> <li>・消費税は低所得者にとっては負担が大きい。所得税の方を増税すべき。</li> <li>・国会議員の給料を半分にすると、職業としての人気がなくなり、政治がの質が落ちてしまうのではないかと思う、。</li> </ul> <p>○付箋に書かれた内容を踏まえて班の考えを再考する。</p> <p><b>打開策をプレゼンしよう！⑩</b></p> <p>○班ごとに打開策をプレゼンする。</p>	<p>手立て②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単独世帯の1か月の収入の使い道が分かる資料を提示し、どれくらい税金を納められそうかをイメージしやすくする。</li> </ul> <p>手立て⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多面的・多角的な視点に気づかせるために、自分とは違う視点の意見を聞き、自分の考えを再考させる。</li> </ul> <p>手立て⑤</p> <p>・同じ考え、似たような考えをもつ生徒をグルーピングし、8つの班をつくる。</p> <p>手立て③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の班の打開策を批判的（実現可能かどうか、どれだけの効果が期待できるのかなど）に読み取り、付箋に書き込んでいくことを伝える。</li> </ul> <p>・税理士をゲストティーチャーとしてお招きし、打開策について精査していただく。</p> <p>手立て⑥</p> <p>手立て③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・税理士をゲストティーチャーとしてお招きし、打開策についての講評をいただく。</li> </ul>

### 3 研究の実際と考察

### (1) 「シミュレーションと調べ学習を通して税への関心を高めた生徒 A」【手立て①④】

第1時～第2時では単元の導入として、サラリーマンの1日の過ごし方と税金の関わりについてシミュレーションを行った。タブレットPCを活用し、日本にはどのような税金があるのかインターネットで調べる場を設けた。第7時に打開策を考える上で、1つの根拠となる可能性があるため、税金の名前だけでなく、どれくらいの税率なのか、どれくらいの税収

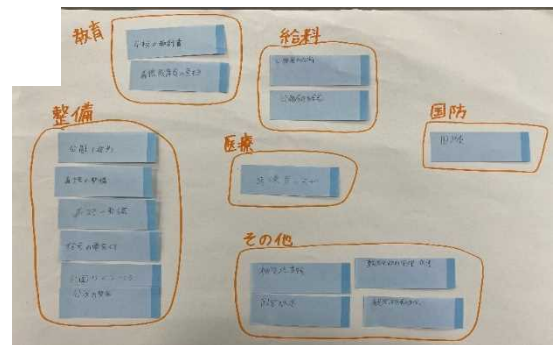


(資料1) タブレットPCで調べる生徒

があるのかを調べるように生徒たちには指示を出した。中には30種類以上の税金について熱心に調べる生徒もいた。生徒Aは、「僕は消費税くらいしか知りませんでした。だけど、自動車税やゴルフ場利用税、入湯税など、身近なものにも税がたくさんかかっていることに気がついた様子であった。他の生徒も消費税以外にも、自分たちの生活と税金の関わりについて興味をもった生徒が多いようだった。

### (2) 「KJ法で税金の使い道を予想することで、追究意欲を高めた生徒 A」

第3時では、「税金の使い道は何か?」という学習課題を提示した。生徒一人ひとりに予想を考えさせると複数予想を立てられる生徒とそうでない生徒とに分かれた。そこで学習課題に対する予想を付箋に書かせ、国語の授業で取り組んでいたKJ法を用いた。4人班ごとに付箋を配布し、自分の考えを自由にたくさん書くように指示を出した。その付箋を1枚のA3の用紙に分類させることで意見を整理させた。生徒Aは「小学校・中学校の教科書の費用」、「高齢者の介護費用」と考え、他の生徒たちは、「公共施設の整備」、「国を守るための費用」、「公務員の給料」など、様々な意見を考えた。



(資料2) 生徒が立てた学習課題に対する予想

生徒たちには次回の授業で税理士の方が租税教室を開いてくださることを伝え、どんな話を聞いてみたいかを考えさせた。生徒Aは「どんなことに税金が1番使われているのか?」、「なぜ税率は上がっていくのか?」とノートに書いた。また、授業の振り返りには、「税金の使い道が自分の思っていたよりもたくさんあるのかもしれない。次回の租税教室に向けて、今日みんなで考えた予想がどこまで合っているのかを確かめたい。」と書いていた。

このように、KJ法を活用して意見交流をさせたことで、生徒Aは税金の使い道についての様々なイメージをもつことができるようになり、学習課題に対して興味・関心をさらに高めることができた。

### **(3)「税理士から租税の意義や役割について学んだ生徒 A」【手立て③】**

第4時では、税理士をお招きして租税教室を開いた。税理士とは事前に打ち合わせを行い、租税教室の内容を決めていった。税金の種類やその使い道を興味・関心をもって生徒が学べるように、話だけでなく、クイズやビデオ鑑賞の時間を取り入れるなどを打ち合わせた。また、事前に生徒から出た「消費税は今後上がるのか?」、「税収を増やすためにはどうすればよいのか?」などの質問にもできるだけ回答していただけるようお願いした。



(資料3) 講演する税理士

租税教室では、アナザーワールドという税金がない社会の生活を描写したビデオを鑑賞した。そして、国の財政について、社会保障に約35兆円がかかっていること、日本には借金が1100兆円以上あることなどを説明していただいた。生徒Aの授業の振り返りには、「税金がないと社会が成り立たないことが分かりました。社会保障費に一番税金がかかっているのは、少子高齢化により高齢者が増えたせいなのかなと思いました。また、日本には多額の借金があつて驚きました。」と書かれていた。生徒Aは日本の税金の使い道と厳しい財政の状況をつかんだようであった。

### **(4)「シミュレーションを通して、いくら税金を納めるか考える生徒 A」【手立て②⑥】**

ここまでの授業で、生徒たちは税金の使い道と日本には多額の借金があることに気づいた。そこで、さらに税金についての強い関心意欲をもたせるために、資料4のようなシミュレーションを行った。8つの4人班にそれぞれ異なる年収を担当させ、その中から自分

	立場	要望		
A	65歳以上の高齢者	年金、介護サービス		
B	病気で苦しんでいる人	少ない自己負担で治療を受けたい (現役世代が3割、高齢者が7割)		
C	子どもがいる家庭	子育て支援、教科書の無償化		
D	渋滞に困っている人々	新しい道路の整備		
E	災害にあった人々	戦争や災害が起きたときに国民や領土を守る自衛隊の運営費など	5兆円	4万2000円
F	病気や障害で働けない人	生活保護の支給など	3兆円	2万5000円



(資料4) 国民からの6つの要望(平成30年度国家予算を参考に作成)を実現するために、与えられた年収(180万円、250万円、350万円、420万円、500万円、650万円、800万円、1000万円)から税金の支払い額を決める

めのかというものである。まずは、話し合いをさせず個人で考えさせる場を設けた。この時点では、与えられた年収から月収を計算しておおまかな金額を感覚的に判断する生徒や家計の学習を活用して支出を計算する生徒など、様々な支払額が出される。黒板に支払額を書いたマグネットシートを貼らせ、それをもとに低収入を担当した生徒、同じ年収でも異なる金額を示した生徒や高収入なのに少ない金額を示した生徒数名に意見を発表させた。次に同じ年収を担当した4人班の生徒たちと、なぜその支払額にしたのかを話し合わせる場を設けた。そうすると級友たちの考えを聞き、支払額を変更する生徒も出てきた。高収入だが支払額が少なかった生徒は「低収入の人たちは税金を払う余裕がないから、国民全体のことを考えると少し多めに払ってもよいかと思いました」など意見が出た。そして、累進課税によりそれぞれの年収からどれくらい税金を支払わなければいけないのかを提示した。生徒Aは年収420万円を担当しており、実際は約42万円を納めなければいけないことを知ると驚いた様子であった。生徒Aの振り返りには「頑張って働いて得た収入の中からこんなにも税金が引かれるとは思いませんでした。少し不公平な気がします。でも収入が少ない人からすると大切な制度だと思いました。」と書かれていた。生徒Aは日本の税制度に対して理解をしながらも、少し公平さにかけるのではないかと考えているようだった。

**(5) 「足りない税収を補うために、打開策を考える生徒A」【手立て⑤】**

前時で生徒たちから出た支払額を合計したものを生徒に提示した。国民からの6つの要望を全て実現するためには予算が足りないことに生徒たちは気づき、「結構がんばって税金を払ったつもりだったけど…」などの声のとびかっていた。足りない税収をどうすればいいのかと生徒たちに投げかけ、この状況をどう乗り越えていけばいいのかを考えることを伝えた。教科書の資料を読み取らせ、日本の財政についての現状を確認し、打開策をまずは個人で考えさせる場を設けた。第2時の調べ学習やこれまで学んだことを根拠としながら、生徒Aからは「消費税を10%から15%に引き上げて税収を確保するといいいと思います



した。」と意見が出た。生徒 A は前時の授業で累進課税に対して不公平を感じていたころから、全ての国民から平等に税金を集めることができる消費税を増税することを考えた。他の生徒からは「公債を発行して、国民からの 6 つの要望を実現すべきだと思います。」「社会保障費に多額の税金がかかっているのに、規模を縮小する方がいいと思います。」などの意見が出た。

生徒 A は前時までに習得した知識や税金の公平性について考えたことを根拠とし、自分なりの打開策をまとめ、意見を述べることができた。学習課題を解決しようと、意欲的に取り組むことができていたと言える。

#### **(6) 「仲間とかかわりあいながら打開策を考える生徒 A」【手立て③⑥】**

(資料 6) プレゼンテーションの様子

(資料 7) 税理士による講評